



時は未来から流れる、と言う人がいます。
人間は、本来ありのままの自分の姿に
戻っていくのだそうです。そう考えると、
多くの人に支えられ生きてきた、その
感謝の気持ちを表わすその瞬間こそ。
人間は自然界で最も美しく尊い姿を
しているのかもしれない。人間とし
て最期の儀式をあなたはどうか自分ら
しく演出しますか。ifは、そんな人た
ちの望みや意志を大切にする雑誌です。

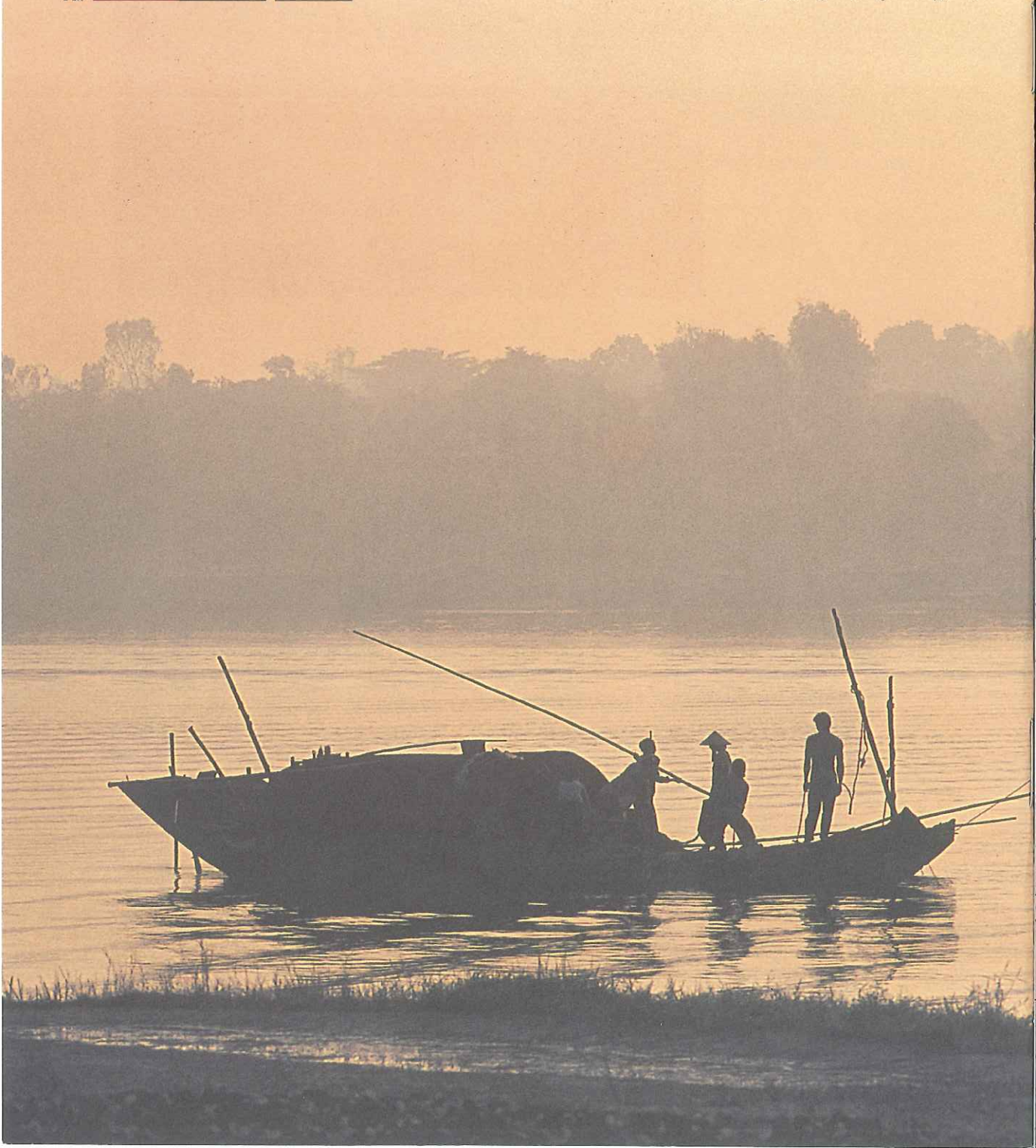




PHOTO BY SCOTLYNN RILEY

目次

2

【遺す言葉】2

旅に病んで
夢は枯野を
かけめぐる

松尾芭蕉

元禄七年、強烈な下痢症状を起こし寝込んでいた芭蕉は、夜中に隣にいた弟子を起こしてこの句を書き取らせた。その三日後、弟子たちに看取られながら静かな死を迎えた。享年五十。赤痢だったと言われている。

PHOTO BY SCOTLYNN RILEY

「イフ・インタビュー」
60歳からのほうが人生は楽しい 藤村俊二 2

【特集】

生前予約

「特別対談」葬儀を自分で予約する時代がやってきた

久保文男（政治評論家）×勝見陽一（全葬連専務理事）

数字で見る高齢化社会

偉人たちの生前予約

私の生前予約

if 共済会の保険会社の選び方

「世界掃苔録」②トラジャ（インドネシア）黄泉に向かう天空の船

「しきたり事典」②喪服は黒に限るか？

「if eyes」介護から快護へ

読者のおたより

26

24

22

20

18

16

12

10

6

4

藤村俊一

60歳からのほうが人生は楽しい

僕はサマセット・モームのこんな箴言が好きです。

「長い目で見れば、人間、生まれつきの金持ちや利口者より、運のいい奴のほうがいい」

その通りだと思えますね。これまで成り行きまかせに、好き勝手に生きてきたわりには人にも恵まれたし、ずいぶん運も良かった。八年前に胃ガンの手術を受けたのも、たまたま知人がクリニックを開院したのがきっかけ。その知人の勧めで人間ドックに入り、結果的にはこれが早期発見につながりました。

胃ガンであることを知らされても

とくにショックはありませんでした。とにかく最初に考えたのは、どうやって、この事実を世間から隠そうかということ。体の具合が悪いとか、家庭の事情がどうかとか、そういうことを他人に知られるのがいやなんです。恥ずかしいんですよ。だから、担当医には三カ月の猶予をもらいました。突然、仕事を断るとバレますから、すでに決まっている仕事をこの三カ月間で消化し、その後で「長期海外ロケに行ってくるから」と公言して入院。約一カ月後には退院して、まもなく仕事も再開しました。結局、五年後に「徹子の部屋」で話すまでまったく気づかれませんでした。

した。

入院中もちょっとしたリゾート気分でした。海に近い病院だったので、動けるようになってからは毎日、本を持参し、ショートパンツ姿で浜辺を散歩。さすがに痛みはありましたけど。でも、日焼けしたせいで見舞いに来てくれる人より僕のほうが顔色がよかったのです。要するに無知なんです。モームの言葉じゃないけど利口者ではないんです。ガンだからといって、それをことさらに深刻にとらえようとは思わない。闘病というのは、病気の人が闘うんじゃないって、お医者さんが闘うものだと考えていますから。僕自身はまな板の上の鯉。だって「病は氣から」というじゃないですか。どんなときも無理せず、自分らしく、楽しく生きるのが一番。今も健康に氣を使い、特別体を鍛えたり、酒や食べる物を控えるようなことはしていません。健康のために好きなことをやめてし

まうほうが、僕は体によくないと思う。少なくとも僕の体質はそうです。

昔から六十歳を自分の人生のターニングポイントと考えていました。おふくろが死んだ年だというのも理由ですが、なんとなく六十歳からのほうが人生、面白そうだと感じていたんです。だから、六十を過ぎたら自分の店(ワイン&バー・O・h・y・o・i・s)を持ちたいという夢も、借金までして実現したわけです。老いへの不安もないですね。若い頃に戻りたいと思ったことは一度もありません。むしろ、もっと年を取りたい。自分がどんなふうになるか、とても興味があります。何しろ、七十年代、八十年代というのは自分にとって未知の世界ですから。この未知の世界に早く足を踏み入れてみたいですね。if

文 米谷紳之介
写真 松尾幹生

ふじむらしゅんじ●俳優。1934年神奈川県鎌倉市生まれ。早稲田大学文学部演劇科を中退して東宝芸能学校卒業。「巨泉・前武のゲバゲバ90分」などで人気を博し、そのダ

ンディさと軽妙な味で独自の役者人生を歩む。映画「ラヂオの時間」、ミュージカル「スター誕生」で好演するなど、舞台・映画・テレビ・CMほか、幅広い分野で活躍中。



葬儀にはモーツアルトの『鎮魂曲』を流してくれ。—— ショパン

三年我が喪を伏せよ。—— 武田信玄

僕の日記、原稿、手紙のたぐいは、
ひとつ残らず中身を読まず
焼却してくれたまえ。—— カフカ

私の全財産の利子を
人類最大の幸福に貢献した人に贈る。—— ノーベル

必ず火葬にせよ。—— 初代林家正蔵

私の蔵書は、一団体に所有されないので
マスコミ人が共有して利用できるものになりたい。—— 大宅壮一

わてが死んだら、わてをきつと
芝居や活動写真にしよりまっせ、見ててみなはれ。—— 坂田三吉

自分の骨を妻の骨といっしょに粉にし、
かきまぜて庭一面に吹き飛ばしてくれ。—— バーナード・ショー

死んでゆく 地獄の沙汰は ともかくも
あとのしまつが 金しだいなれ —— 安藤広重

生前予約

特集

少子高齢化が葬儀を変えた

勝見 日本は超高齢化社会に向かっているといわれていますが、私たちの暮らしはどうなるのでしょうか。

久保 いま日本は、急速に高齢化社会に向かい、しかも少子化も進むという大変な問題に直面しています。

平成九年度の調査では、65歳以上の人口は1,976万人。総人口の15.7%です。これが2025年には27.4%、2050年には32.3%にも達するといわれています。これも、三人にひとりが高齢者ですよ。こう急速に高齢化すると、社会の活力も低下して、経済的にも社会的にも政治的にも大変な問題が生まれてきますね。

それに少子化が拍車をかけます。出生率を見ても、昭和40年代までは2人から2.2人程度ありましたが、いまは1.39人。すさまじい勢いで子どもが減っています。

超高齢化社会と急速な少子化。このダブルパンチがこれからの日本の最

大の問題といえるんじゃないでしょうか。

勝見 そうですね。そんな状況だけに、当事者であるお年寄りの方々がいろんなかたちで将来に不安を持つていらっしゃるんです。年金のこと、健康保険のこと、介護のこと。そしてもうひとつ、葬儀のことです。これはいろんな世論調査ですとかアンケート調査で出ているわけなんです。自分の葬儀を、あるいは身内の葬儀をどうするか、ということですね。

いま、日本の社会全体の傾向として、葬儀のかたちが従来とは変わってきています。生活も変わり、住宅事情も変わり……ということ、変わらざるをえない。それがいまの流れだと思えます。そういう中で、身内だけでお葬式をしようとかいうようなことが段々と増えているんです。

久保 私もいろいろと葬儀には参列していますが、決められたメニューを葬儀屋さんが執り行うという、まあ、定番的な葬儀もやっぱり多いです。でもね、それと同時に、葬儀は本当に

とが心配になってくるんですよ。

その点で、if共済会さんは面白い制度だと思えますね。『生前予約』によつて自分の葬儀のやり方を決められるだけでなく、生命保険と組み合わせることで費用のことも考えてらっしゃる。大変面白い発想じゃないかと感じますね。

『生前予約』で子の負担も軽減

勝見 ありがとうございます。私どもがこのif共済会を始めましたのは、年寄りがいろんな不安を抱えてらっしゃって、しかも、お年寄りだけの世帯がいっぱいあると。それなのに、地域との結びつきが希薄になって、万が一の時にどこにお手伝いを頼んだらいいのかわからないという声がたくさん聞かれるんです。そこで私どもは葬儀社として、『事前でもいいから相談してください』とお願ひしているんです。『相談していろんな不安を解消して欲しい』。それがif共済会のひとつの目的なんです。以前は『生前に自分の葬儀を予約するなんて縁起でもない』といわれましたが、今は自分のことは自分でやらなければいけない時代になりましたので、葬儀を自分のこととして真剣に考えるようになったようですね。

葬儀を自分で予約する時代

がやってきた。

親しい人たちだけでおこなって、その後で、故人の友達が中心になって『偲ぶ会』とか『お別れの会』なんていうのをやる。そういう趣向も増えています。こういうのは参列しても非常に気持ちのいいですね。

葬儀のかたちが変わってきたのは、社会の変化を抜きには説明できないと思うんですよ。戦後最大の不況なんていわれていますが、それと同時に国際化の波に洗われて、企業がいやおうなく国際競争の中で生き残りをかけて戦っていかねばならない。そうすると、リストラで定年まで働けないということになりかねない。すると今までは葬儀も会社の手配してくれていたけれど、そうもいなくなってくる。都市化が進んだおかげで近所の方々に手伝いを頼むわけにもい

かない。そこで自分たちで葬儀を何とかやらなくてはならなくなってきたんです。

「特別対談」
久保文男 (政治評論家)
社会の変化によつて、最後の締めくくりとなる自分の葬儀を人生設計に加えてはならない時代となった。「生前予約」というユニークなif共済会の制度について、政治評論家の久保文男氏と勝見専務理事が語り合う。

勝見陽一 (全葬連専務理事)



葬儀はその人の人生の仕上げの儀式なのだから、
安直なものをやってはいけない。

久保文男



それに、先ほど少子化の話題が出ましたけれど、今の時代、多くの家庭がひとり息子、ひとり娘ばかりです。すると、ひとり息子とひとり娘が結婚いたしますと、双方合わせて四人の親をひと組の夫婦が面倒をみなければいけないという状況になってしまいます。老後の面倒、介護もあれば、その後は四人分の葬儀をひと組の夫婦が負担する。これは実際問題として、費用もろもろ大変な負担です。そこで親としましては、自分の葬儀まで子どもに面倒をかけるわけにはいかないという親心で、『生前予約』という事になってくるんですね。

この『生前予約』は、アメリカやヨーロッパでは既にかんりの割合で進んでおりまして、アメリカでは40%近くが『生前予約』なさっているようです。英語で『プレニード』というんですが、

葬儀は自分の人生の最後の仕上げ

久保 そうですか。私もいずれば日本も欧米並みになると感じますね。社会構造がこうも変化してきますと、定年後の第二の人生を自分で設計し

葬儀を 自分で 予約する

時代が やつて きた。

久保 お坊さんがお経をあげてみんなが参列するというのもいいんですが、やっぱり、弔問客を感じさせるような、『こういう葬式もいいな』と思わせるようなものがないですね。弔辞も形式的なものじゃなくて、故人の一生をそれなりに評価して、本当に心にし

ずは明るく楽しく。辛い、辛い、辛い、なんていうのは気持ちの問題ですから、やっぱり明るく楽しく。それが基本ではないでしょうか。貧しくても気持ちの持ちようで楽しい人生を歩めるし、どんなに富んでいても、お金を使いきるなんてことはできるわけがないですよ。

それから、何事にもチャレンジングであつて欲しいということです。例えば投資信託などにチャレンジしていく。そうすることで日本の経済も変わっていくだろうし。

私、評論家仲間だった人なんですけど、葬儀の後に『愚公云』というのをやりました。スポーツ評論家だったものだから、巨人の長嶋さんや広岡さんが出てくると、故人の生前の面白い、極めて人間的なエピソードを披露してくださつて、とても素晴らしい会になりました。ああいうのがいいですね。私も、葬儀は家族親類だけでやつてね、その後にそういう会をやつてもらいたいと思います。そこでは様々なざくばらんな話が出てくる。若いころの女の子の話なんかもね。

充実した老後のために

久保 それから、自分の人生を『自己管理・自己完結』するために、充実した老後を生きて欲しいですね。ま

自分で考えていくということがどうしても避けられないという状況が生まれてきます。そういう意味で、『自分で決める』という『自己管理・自己完結』がいやおうなく求められるようになってくる、そう思いますね。

そういう『自己管理』の流れの上で、葬儀も、『死んじゃったら誰かがやつてくれるだろう』という無責任なことじゃなくて、第二の人生のその延長の上で真面目に考えてみるべきですね。葬儀はその人の人生の最後の仕上げの儀式なんですから、安直なものをやつてはいけませんよ。私は知り合いの文化人とか作家とか評論家連中に『むやみやたらな葬式はするな』といつてますよ。

勝見 そうですよ。むやみに盛大ならいいということじゃなくて、いまおっしゃられたように、自分の人生の最後の仕上げとしてどうあるべきかと考えることですよ。『死を考える』とは生きることを考えることとイコールだ』とよくいわれますけど、そういう意味で、老後という第二の人生のライフスタイルを自分で設計して、そしてその最後の自己完結を計るといふ流れの中に葬儀があるという、そういう位置づけになるかと思っています。

日本の社会全体の傾向として、葬儀のかたちも従来とは
変わらざるをえなくなっている。

勝見陽

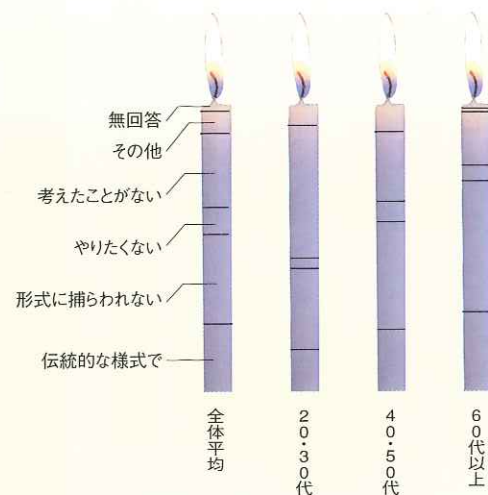


[if DATA] 数字で見る高齢化社会

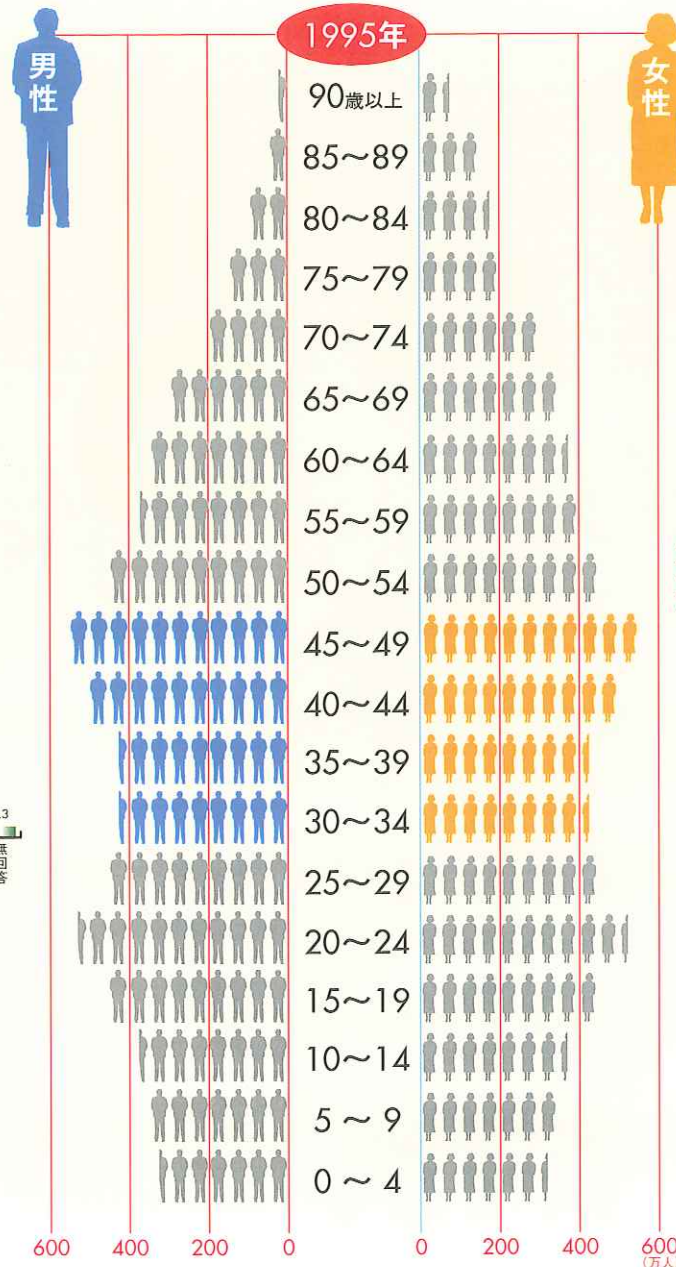
少子化により、21世紀は老人が人口の多くをしめるようになるといわれている。
ある意味では老人が世間の主流となるわけだが、生まれてから死ぬまでの人生をどう組み立てるか。
客観的なデータから未来を予測し、自分の人生に反映させてみるのもおもしろい。

自分の葬儀の様式

東京都生活文化局「葬儀に関する費用等調査報告書(1996年3月)」

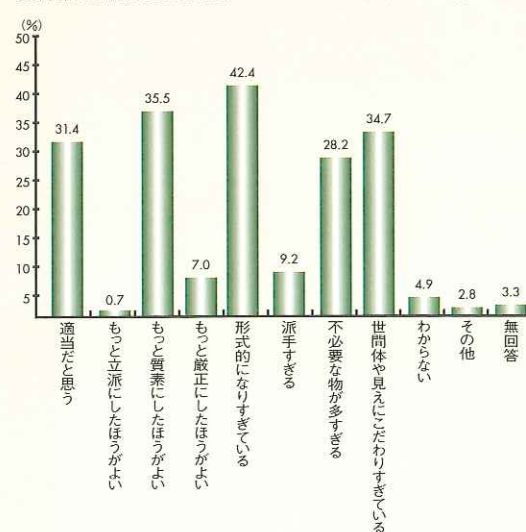


人口バランスの急激な変化

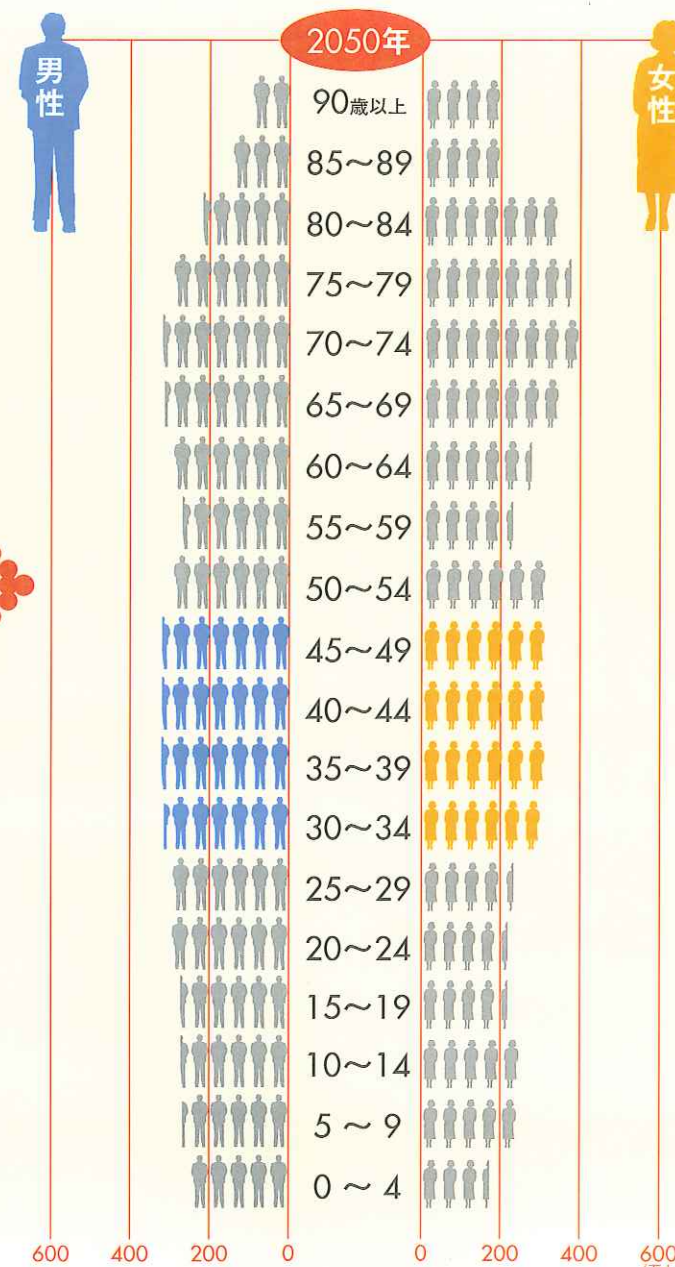


葬儀の印象

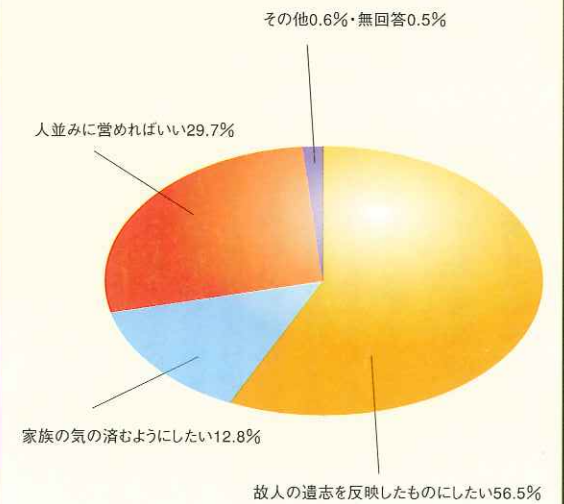
全日本葬祭業共同組合連合会「葬儀についてのアンケート調査(1995年9月)」



2050年



家族の葬儀についての考え



東京都生活文化局「葬儀に関する費用等調査報告書(1996年3月)」

厚生省人口問題研究所「日本の将来推計人口(1997年1月推計)」

遺言を戦略に用いた戦国武将。武田信玄

「わが喪を三年伏せよ。信玄ありと見れば甲州に手をかける敵はいない。信玄ありとみせかけるには影武者をつかえ」元龜三年、信州駒場の長岳寺で最後の時を迎えようとする信玄は、子勝頼を呼び寄せこう遺言した。勝頼の若さを案じた信玄の遺言は、二年後に破られてしまう。血気さかな勝頼は長篠の戦いを開始、大敗してしまうのである。信玄の遺言が守られたら、戦国の勢力地図は大きく変わっていたかもしれない。



異才が自ら演出した自分葬。深沢七郎

『楳嶺節考』をはじめとする作品で独自の死生感を語った作家、深沢七郎は、生涯を自然流に生きた異才として、現在でも多くの人に影響をあたえている。彼の葬儀はまさに、深沢七郎流のユニークなものだった。昭和六十二年八月七十三歳で亡くなった彼の通夜には、本人が生前に吹き込んだお経と、リストの『ハンガリー狂詩曲』、レッドツェッペリンの『移民の歌』が流れ、火葬場での葬送曲は、これも本人の指示でロッド・スチュアートの『アイン・セクシー』。彼は自分の葬儀のため何度も予行練習をしたという。



偉人たちの生前予約

生前予約は新しい言葉である。しかし、はるか昔から、遺書や遺言、あるいは作品という形で生前予約は行われてきた。偉人たちは、自分の死を悟った時、何を託し、何を残そうとしたのか？

反骨の棋士が残した生前予約の心意気。坂田三吉

『王将』のモデルでもある棋士、坂田三吉は反骨の人だった。東京の将棋界に対抗して関西名人を名乗るなど、その奇行は数知れず。彼の心意気をあらわすのが、友人に語ったという、生前予約ならぬ生前宣言である。「わてが死んだら、わてをきつと芝居や活動写真にしよう。りまつせ、見てみなはれ」。



ノーベル賞作家の最後の皮肉。バーナード・ショー

『マイフェア・レディ』の原作、戯曲『ピグマリオン』で知られる作家バーナード・ショーは皮肉屋としても有名である。九十歳の時、アメリカ女優パトリック・ケネルが「あなたの立派な脳髓と私の美しい肉体が結ばれば、どんなに優秀な子供が生まれるでしょう」とプロポーズすると「私の貧弱な肉体とあなたの鈍感な脳髓が結ばれたらどんなことになると思う」と答えたという。「結婚は人生の墓場」という言葉も彼の警句。彼は九十四歳まで生き、イギリス政府はこのノーベル賞作家を国葬にしようとしたが、書斎から出てきた遺書によりとりやめとなった。遺書にはこう書かれていた。「自分の骨を妻の骨といっしょに粉にしておかきまぜて庭一面に吹き飛ばしてくれ」。





教会の決まりを変えさせた大作曲家の生前予約。ショパン

繊細なピアノ曲により、多くの女性ファンを持つショパンは一八四九年パリのアパートでその短い生涯を閉じた。しかし、彼の遺体は十三日間そのまま葬儀も行われなかった。それにはこんな逸話が残されている。生前ショパンは自分の葬儀にはモーツァルトの『鎮魂曲』を流して欲しいと言っていた。しかし『鎮魂曲』には女性合唱のパートがある。当時、教会では女性合唱が認められていなかった。結局は教会が折れ葬儀が行われるが、その決定までになんと十三日もかかったのである。

遺言で誕生した雑誌文献資料館。大宅壮一

「億総白痴化」「ロコミ」「虚業家」などの警句を残した、戦後マスコミの寵児、大宅壮一は死して二十万部におよぶ蔵書を残した。「二団体に所有されなくて、マスコミの人が共有して利用できるものになりたい」。彼の遺言から誕生したのが東京・八幡山にある大宅壮一文庫である。ここでは、戦後発行されたほとんどの雑誌のバックナンバーを閲覧することができる。エネルギーな取材で「マスコミの帝王」と呼ばれた彼は、この大宅文庫をとおして後進たちに資料集めの大切さを教えている。



自らの最後も洒落にした落語家の遺言。初代林家正蔵

「らくだ」「大山詣り」「反魂香」など、落語には死そのものをユーモアに変え洒落のめしちゃうバイタリテイがある。当然それを演じている落語家の葬儀となればやはり、死に方もお見事となる。有名なのは天保十三年六十二歳で死んだ、初代林屋正蔵。臨終の際に正蔵師匠「必ず火葬にしろ」と何度も念を押したという。さて遺言どおり火葬にすると、遺体に火花が仕掛けてあつてドーン。参列者はさぞかし仰天したことだろう。



庶民の哀歓を代表する遺書の傑作。安藤広重

『東海道五十三次』で知られる安藤広重の遺書は三通あるといわれているが、有名なのは「死んでゆく 地獄の沙汰はともかくも 後のしまつが 金しだいなれ」という狂歌でしめられたもの。残してやる金はないが、後は家族でうまくやってくれという哀歓あふれる遺書は、庶民の生活を描き続けた広重ならではのもの。

純粋なる精神が残した潔癖すぎる生前予約。カフカ

「彼の精神が純粋でぎびしかったように、彼の死顔もぎびしく、近寄りがたかった。そして、それは古い大理石の彫刻の胸像のように美しかった」。一九二四年ウィーンの病院で作家カフカの死を見とった医師はこう語っている。カフカは親友宛ての遺書で、自分の死後、遺稿、日記、原稿、手紙のたぐいすべてを焼却するよう依頼している。さらに、自分が書いたものの中で、「認めてもいいのは、書物になった『死刑宣告』『火夫』『変身』『流刑地にて』『村医者』『断食行者』のみで、それさえもすっぱり無くなってしまうべきだ。一度出版されたものだから、それを人が持つていけることを禁止しようとしただけだ」とも書いている。日中は仕事をしながら、夜小説を書き、過労のため結核を患ったカフカの精神は、自分の存在の証である作品さえも否定してしまったのだろうか？ 呼吸困難におちいり、苦痛から医者にもルヒネ注射を請うた彼の最後の言葉は「そうだ、それでいい」という。



新聞の誤報から生まれた偉大なる生前予約。ノーベル

「死の商人 火薬王ノーベル死す」。ノーベルはある朝、新聞を見て驚いた。そこには自分の死亡記事が載っているのである。これは、自分と死んだ兄とを間違えた誤報であることが判明した。しかし、彼を驚かせたのは「死の商人」という言葉。ニトログリセリンから、ダイナマイトを発明し、大富豪となった晩年のノーベル。研究に没頭する日々の中で、人々が自分のことをどう思っているのかを、この時はじめて知ったのである。「私の財産の利子を、人類最大の幸福に貢献した人に贈る」。彼が遺言を遺したのは、その記事を読んだ数日後、死の数年前のことだった。こうして、新聞記事の誤報からノーベル賞は生まれた。

子供が産まれて初めて自分の「死」を意識しました。



これまで自由に楽しく生きてきたから、自分の子供にもつらい思いはさせたくないなああって、この子ができたときに思いました。そうしたら、それまで全然なかった責任感みたいなものが、一気にわき起こってきて、人生設計とか、保険とかにすごく興味が出てきたんです。

とくにお葬式は、もう自分がいなくなつた後のことなので、責任が持てませんよね。それに突然のことなので、残された人には大きな負担になると思っています。お金のことも含めて。

そんなとき、if共済会の生前予約を知り「これだ」と感じて入会しました。もちろん主人も一緒にです。

if共済会には、葬儀費用を準備するための保険プランもあるので、お葬式のこととはこれでもうOKって感じですね。生前予約もしましたけど、特別変わったお葬式にするつもりはありません。予算を決めてそれに見合った内容で担当の葬儀屋さん構成していただきました。

子供が産まれて自分の「死」を意識するなんて、親になるまでは夢にも思いませんでした。「自分のことは自分でする」という子供へのメッセージも含めて、いい選択だと思っています。if

「ワタシ」の 予約

石黒まつ子さん
25歳女性 主婦

「私」の 生前

北原龍介さん
67歳男性 デザイナー

定年を迎えて仕事から離れても、まだまだ人生が終わったわけじゃありません。これから15年、20年と新しい人生を歩んで行くんです。

仕事にかけてきた人生は「私」という人間を作り上げていく重要な課程でしたが、リタイア後の人生も、私の一生の大切な道のりだと思うのです。これからの人生は、会社とか立場だとかに縛られない、自分勝手な楽しみを追求することに費やすつもりです。

65歳になったのを期に、自分の人生を整理するつもりで生前予約をしました。葬儀費用を準備し、葬儀の段取りまで決めておく。残されたものに迷惑をかけないために、と皆には言っています。「死に方まで決めておくのだから、後はオレの好きにさせろ」というのが本音ですね。

私の生前予約は、自分勝手な余生を送るための言い訳、というところですか。if

「死に方まで決めておくのだから、後はオレの好きにさせろ」というのが本音ですね。

生命保険は「遠い約束」です。

生命保険は私たちの将来を保障する大切な約束です。

ビッグバンを迎えた今日、「知らなかった」は自分の責任という、自己責任の認識がいつそう必要になりました。

「遠い約束」のパートナーとして、どんな保険会社を選んだらいいのか。

if 共済会がソニー生命を選んだ理由

if 共済会保険プランは、if 共済会の会員のために用意された保険で、ソニー生命保険株式会社が取り扱っています。昨今の金融機関の破綻にご懸念を抱かれている方も多いことでしょう。そこで、とかく困惑しがちな保険会社の信用判断の指標情報のなかで、これだけを見れば確実に判断できるという指標情報の読み方を、ご紹介し、if 共済会がソニー生命を選んだ理由を明示したいと思います。

保険会社が「マ化せない3つの指標

経営が健全なら経営内容を公表できるはずですが、生命保険会社の情報開示はなかなか進みません。株や不

しているのが現状です。

生命保険会社の経営内容を表すのに、さまざまなランク付けや指標がありますが、お仕着せの「公表」に惑わされないために、粉飾のしようのない数値から情報を読みとる必要があります。

1. 保険契約純増加高
2. 年間保険料余裕度
3. 裸のソルベンシーマージン

この3つの数値をおさえれば、会社の信頼度をはかることができます。

1. 保険契約純増加高

生命保険会社は、保険契約によって保険料(資金)を集め、その資金を運用することによって収益をあげています。ですから年度中の新規の契約(資金の流入)から、解約、死亡保険金支払い等で消滅した契約(資金の流出)を差し引いた契約高、これを保険契約純増加高といいますが、これでその会社の将来を判断することが可能です。

(「週刊東洋経済」1997年7月26日号より)

if共済会は、「遠い約束」のパートナーとして、この3つの指標から最も信頼に値する生命保険会社を選びました。
“安心と信頼”のif共済会として、これからも厳しく選びます。

(單位: 億圓)

「エコノミスト」(’99.1.12)

$$\text{支払余裕度} = \frac{\text{保険料等支払い} + \text{事業費}}{\text{保険料等収入}} \times 100$$

「エコノミスト'98.1.20」| (生命保険協会編「生命保険事業概況」の数字をもとに作成)

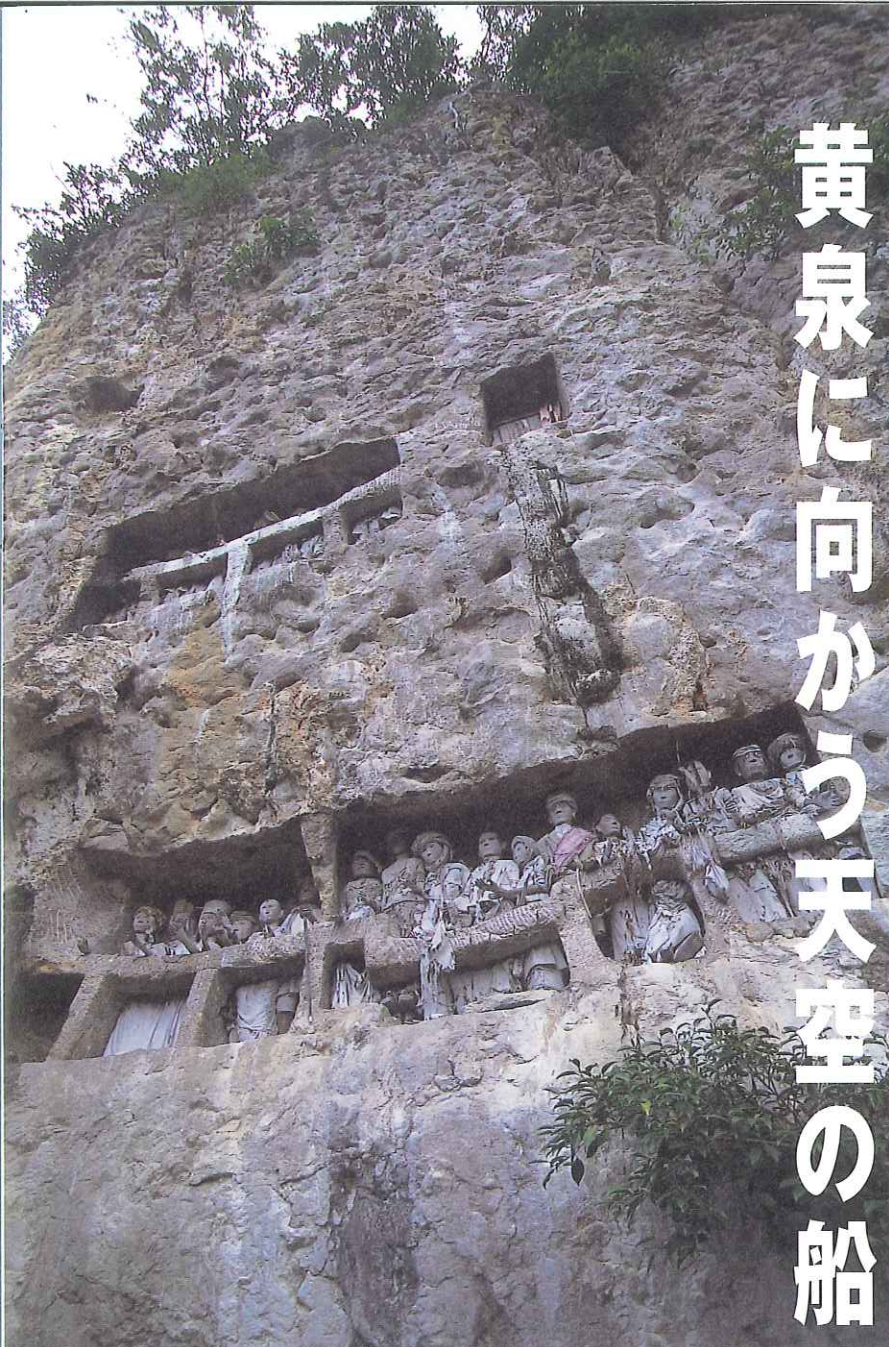
世界掃苔録

②トラジャ (インドネシア)

黄泉に向かう天空の船

死者たちの王国

「神々の国」という意味であるトラジャはインドネシアのスラウェシ島の中央山岳地方にある。日本ではトラジャ・コーヒーでも有名だ。ここには死ぬために生きる人々がいる。死がタブー視されネガティブに特徴づけられる現代において、トラジャでは死を文化の



リアンと呼ばれる埋葬場。部落を見下ろす断崖絶壁の岩肌をくりぬいて作られる。

中心に据え、死は人生最大のイベントとして祭られるという。トラジャは、人々は死ぬために生きる、神々の国なのである。
標高1000メートルのトラジャ、このトラジャ族の住居は、トンコンンと呼ばれる大きな舟形の家である。伝説によると、昔トラジャ族は空から舟でやってきた民族であり、人が死ぬと舟に乗って天空に帰っていくという。そのため天空の階段である断崖に墓を作り、舟形の木棺を作るのである。トラジャの葬儀は盛大である。それは、とりわけ死者の社会的地位、富、威信と深く結び付いている。すなわち、地位が高く裕福な人が、高いランクの祭宴がおこなわれる人になる。

王族などの葬儀には、葬儀場は村人たちの手で数ヶ月かけて作られ、葬儀の準備にときには一年以上の時間がかけられる時もある。

王族の葬儀などには大量の水牛や豚の家畜が生けにえにされる。水牛はトラジャ族にとって富と権力の象徴であり、祭宴にかかる費用も膨大となる。遺体は薬草やホルマリンで防腐処理され、家族が住む部屋で病人として扱われる。すなわち、儀式が終了するまでは死者とみなされないのだ。



散乱する人骨。あたり一帯には独特の雰囲気漂っている。

祭宴は死者を送るマバドンが円陣をくんで歌い踊られ、娯楽としての闘牛もおこなわれる。

リアンと呼ばれる岸壁や洞窟などに死者を埋葬するというトラジャの伝説的埋葬は、トラジャだけで行われている独特な習慣である。

トラジャの人々の多くは今ではキリスト教やイスラム教であるが、精霊信

仰をも信じており、岩壁に墓を作るのは魂が天国に昇れるようにとの考えからである。レモにある険しい岩壁の中腹には、王族や貴族などのリアンがあり、ベランダのようなすりにタウタウ人形が並んでいる。それは村を見下ろす岩壁から死者の魂が水田や村々を悪霊から守っているのだ。またロンダにある岩山の鍾乳洞は、そのまま巨大な墓穴として利用されていて、庶民の棺桶や人骨が散乱している。入口には観光客用にガイドがいてランプの明かりをもつて案内してくれる。

トラジャの中心の町マカレの郊外にあるパリシランノ村には、もつと不思議な墓がある。この村にある緑の大木には幾つもの小さな穴の跡があり、鳥の作ったような穴が赤ちゃんの墓なのだ。トラジャの人々は、赤ちゃんが死ぬと精霊になると信じていて、赤子が死ぬと大木をくり抜いてその穴に遺体を安置するのである。

トラジャの盛大な葬儀や葬り方は、死を生活文化の中心に据えていて、いわば生と死が逆転した世界ともおもえる。
彼らにとって、葬式は悲しいものではない。来世へ旅立つための祝うべき儀式なのだ。■



トラジャはインドネシア・スラウェシ島の南部、半島の付け根にあり、2000m級山々に囲まれた標高800mの山岳地帯に位置している。



死者を送る葬送のサークル・ダンス。

「喪服は黒」というのが日本では常識です。でも、これは国際社会でも通用するのでしょうか。西洋の喪服に対する考え方、日本の喪服の歴史から考えてみました。

葬儀にはさまざまな常識、マナー、作法のようなものがあるが、服装もそのひとつである。普通、遺族や親族、特に親しかった友人については正式な喪服を着用し、それ以外の知人については略式の喪服または黒っぽい平服でも構わないとされている。

男性の正式な喪服は、モーニングに白いワイシャツ、黒のネクタイ、靴下、靴である。女性は黒無地のアフタヌーンドレス。略式の場合だと、男性はダークスーツに黒いネクタイ、女性は黒のスーツまたはワンピースというのが一応の目安である。要するに喪服は黒というのが常識であり、すっかり日本人全体の暗黙の了解事項となっている。これを疑う人もほとんどいない。

しかし、今年の2月に行われたヨルダンのフセイン前国王の葬儀のTVニュースを見る限り、黒い喪服を着た参列者は意外なことに少数派だった。黒いスーツに黒いタイという出で立ちで葬儀に参列したのは日本の小渕恵三首相と、アメリカのブッシュ前大統領くらい。もちろん中近東やアフリカ諸国の政府

要人など民族衣装での参列者も多いわけだが、スーツ姿の西側諸国の要人を見ても、黒よりもグレーや紺の色が目についた。

クリントン大統領はスーツは黒だが、ネクタイは紺地に小紋の柄。イギリスのチャールズ皇太子はブルーグレーのスーツに、胸ポケットから黒のポケットチーフをのぞかせていた。ロシアのエリツィン大統領やアメリカのカーター元大統領も、紺色のスーツに同系色のタイだった。日本の常識が世界に通用しない例はこれに限らないが、今や「喪服は黒」というのも日本人の固定観念なのかもしれない。国際社会では「喪服は黒」の意識はしだいに希薄になりつつあるようだ

実は、日本においても喪服を黒い色で統一するようになったのは明治時代以後のことである。しかも当時はまだ

洋服ではなく和服が主流。黒の礼服が一般に普及したのは、戦後、アパレル業界が「喪服は黒」のイメージ戦略を大々的に打ち出してから。製菓業界が売上増のためにバレンタインデーにチョコレートを贈る風習を定着させたのと同じくなくもない。案外、歴史は新しい。日本ではもともと喪服の色は生なりや灰色、あるいは白だったという。

地方によっては、今も喪服に白い色を用いているところもある。たとえば死者の近親の女性は「死に島田」と呼ばれる髷を結び、白無垢の喪服を着る地域がある。「死に島田」とは芸者のつばし島田よりずっと髷が低く、小さく、髷もたばもごんまりとした髪形のことだ。喪服が白無垢なのは、おそらく神仏の使いが白犬、白狐、白蛇であるように、白が霊界の象徴であるからだろう。死装束に白が用いられるのと同じである。ちなみに、婚礼にも葬式にも白い衣装が用いられるのは、白が物忌み籠もり、つまり、一定期間、飲食などを慎み、心身を清める際の着物の

色だからである。神前結婚式あとの披露の席でお色直しをするのは、花嫁がそのような白に象徴される世界から俗世間に戻ってくるために必要なのである。

一方、黒は、西洋では死者を悼み、悲しむことを表現する色とされる。だから、黒い喪服が洋服文化圏においてあるコンセンサスをもつて受け入れられ、戦後の日本にもそれが広く普及した。しかし、先のフセイン前国王の葬儀にも明らかのように、喪服の流儀も変わりとつある。価値観の多様化はこんなところにも見られるようになった。本来、故人への思いや悲しみはきわめて個人的なことからであり、冥福を祈り、哀悼を表すその方法もそれぞれの流儀が反映されている。つまり、礼を失するような服装でなければ、喪服は黒でなくとも構わないということである。遠くない将来、日本でも喪服に個性が反映されるようになるに違いない。



写真提供:ロイター

黒いスーツに黒いタイという出で立ちで葬儀に参列したのは日本の小渕恵三首相と、アメリカのブッシュ前大統領くらい。

文・米谷神之介

しきたり事典 ②

喪服は黒に限るか？

Q 共済事業と保険事業の違いはなんですか？

共済事業とは「二人は皆のため、皆は一人のために」という相互扶助事業のことをいいます。そして、共済の別称を協同組合保険と呼び、非営利を特徴にしています。こうした共済事業に比べて民間保険は営利を目的にした保険事業となっています。

Q 全養済センターの事業理念を教えてください

絶対的相互扶助これが全養済センターの理念です。
 たんなる相互扶助ならば保険事業にも見られます。しかし、保険事業では会社の利益だけが蓄積されて、そこで働く職員や契約者のサービスは送られてしまいます。全養済事業の趣

旨は事業を運動と位置付けして、高齢者のみならず国民全体の福祉向上に向けた活動にしているという点です。
 目的は国民の誰もが参加できるような安い掛金で、国民が悩む社会問題を解決する事です。

Q 現物給付システムについて教えてください

全養済センターの介護システムとは現物給付という、人と物によるサービス姿勢です。保険会社の介護サービスとは金銭給付という、お金による保障です。
 お金による保障では、お金が足りなくなったら介護を受けることができなくなります。これに対して現物給付の保障では、お金が無くても介護を受けることができます。どちらが良いかは一目瞭然です。

Q 具体的な介護サービスはどのようなに行われますか

要介護者が早急に社会復帰できるような介護態勢を組み施すことです。
 したがって、介護は施設介護を原則とし、要介護者の人間としての尊厳が守れるような自動介護システム方式にすることです。要するに体の介護は機械で、心のカウンセリングは人間によるという介護姿勢です。

Q 保障のポイントはどういったところにありますか

まず、会員が65歳から「寝たきり」「痴呆症」となり、医師から「介護を必要とする者」と診断された時から、本会指定の介護施設に入居でき、リハビリをしながら介護を受けることができます。また、在宅介護を希望する場合は、専属ヘルパーを派遣します。

また、年齢に関係なく、加入した後、介護を受けずに死亡した場合は、規定の葬儀を無料で受けることができ、指定の葬儀を受けない場合には、40万円の葬儀見舞金が支給されます。さらに、病气、傷害で入院した場合、所定の見舞金が支給されます。

Q 塩山荘に続く施設は計画しているのですか？

平成12年の後半には静岡県熱海市来宮に、第二号施設が建設されます。それ以後は、毎年各地に「ケア付老人ホーム」が建設され、その一部が会員の

保養施設になります。そして、10年後には世界各国に同じような施設が建設され、会員は1週間単位で利用することが出来るようになります。

[if eyes]

介護から快護へ

現物給付で注目。全養済センターの介護システム
 年をとって体の自由がきかなくなったときどうするか。平均寿命が長くなった現代で誰もが抱えている不安でしょう。金銭ではなく現物給付で共済事業を行っている全養済センターに、そのシステムと事業内容をきいてみました。

4つの
 もしもの時も、これで安心
 贈り物

「寝たきり」「痴呆」のどちらもカバー
 「寝たきり」「痴呆」どちらの状態になっても安心。

要介護状態になったら
 ご希望で介護ヘルパーを派遣するか、介護施設でリハビリをしながら完全介護をいたします。

介護保障は、65歳から一生
 満65歳から生涯に渡って完全介護をいたします。介護を受けずに死亡した場合は規定の葬儀が受けられます。

「万」の場合の見舞金
 保障始期日より6カ月以内に病気で入院した場合は30%、6カ月以上1年以内の場合は60%の見舞金になります。
 ★71才〜80才迄月額1万円で延長可能。

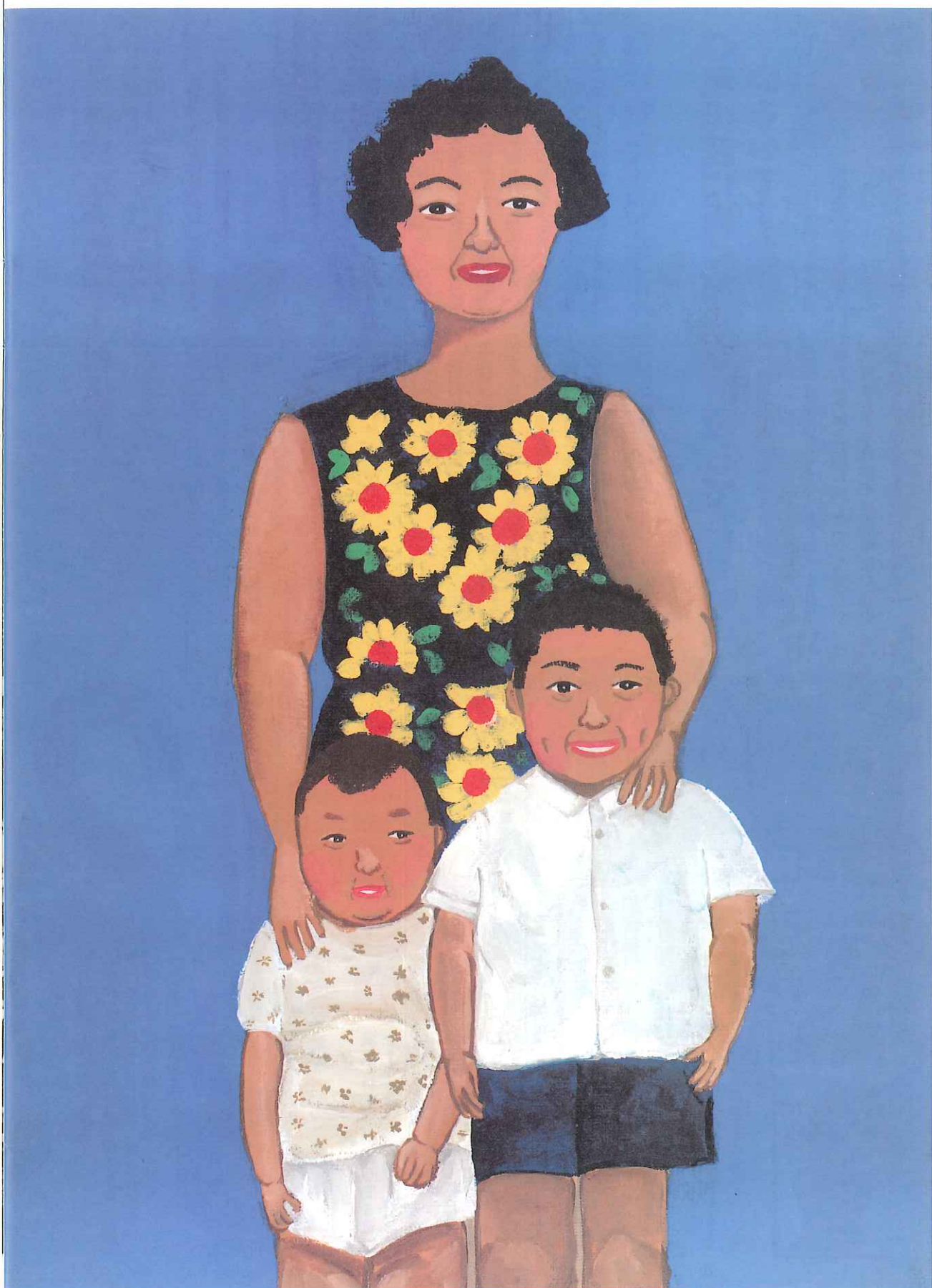
「介護はこれで100%安心!!」
 早川一男 著

●お問い合わせ先 ☎0120-889452 FAX.03(3340)8032



ケア付老人ホーム
 全養済センター 塩山荘
 現物給付の第一号の施設として、96年12月に山梨県塩山市にオープン。わが国有数の高アルカリ性でペーバー10.1、湯温42度の専用温泉があり、その施設内で今後、理学療養士による徹底したリハビリ介護とヘルパーによる完全介護が受けられるようになる。





しきたり事典はためになる記事ですね。

葬儀の専門家がしきたりを教えてくださるので、これが決定版ということになりますね。

ファイリングして揃えようと考えています。

次号も楽しみにしています。

こんなに楽しい会報誌なら毎月でも読みたいですね。

石川県 Y・S・(65才)

若い人でもお葬式のことなどを真剣に考えている方がいることを知り、大変感心しました。

これからは個性的なお葬式をあげるひとが、どんどん増えてくるのではないのでしょうか。私も自分の葬儀プランをワクワクしながら考えています。

滋賀県 匿名希望(61才)

生前予約に魅力を感じ、江共済会に入会しました。

私も独自の葬儀をと考えていますが、実際に今までどんな形の葬儀をあげた人がいるのでしょうか。

参考にしたので、実例を挙げた特集を組んでいただけたらと思います。

東京都 三瓶徳弘(58才 自営業)

読者からのお便り

江共済会と互助会との違いがよくわかりました。

我ながらいい選択をしたかと、ひとりほくそ笑んでいます。

できれば親しい友人にも勧めてみたいと思うのですが、ちよつと切り出しにくいですね。スマートな勧め方でもあれば紹介してください。

埼玉県 吉田宏(48才 会社員)

創刊おめでとうございます。

家族で楽しく読ませていただきました。

本当のことをいうと、抹香臭いものが来るんじゃないかとあまり期待していませんでしたが、「死」をテーマにしているのに、全体的に元気で、ポジティブな内容なので驚きました。

私も猫八さんのように前向きに生きていきたいと思っています。

佐賀県 齋藤礼子(44才 主婦)

私も生前予約をしました。

基本的には無宗教葬で、お焼香はせず、会葬者には花を一輪ずつ供えてもらう形式にしました。

花は赤でも白でも黄色でもなんでもその人が好きな花にしてもらおうつもりです。

東京都 川崎通雄(58才 会社員)

創刊号楽しく拝見いたしました。

特集を読んで思ったのですが、不死はむりでも不老は心が次第で何とかなるのではないのでしょうか。精進料理・薬膳・気功など、カラダとココロを若く保つのはやはり本人の努力にかかっているのだと思います。

孫に「おじいちゃんいつまでも元気だね」なんて言われると、ほんとに頑張ろうと思いますよね。

福岡県 田中善之(73才)

小生生来のくいしんぼなので、精進料理や薬膳だけではなんとももの足りない。

日本各地あるいは世界の長寿食みたいなものを特集してもらえないでしょうか。

老いてなお食いつづけられる旨いものがあれば、是非とも知りたいものです。

北海道 高根泰生(62才)

世界掃苔録は大変興味深い記事でした。

生き物には必ずおとずれる死ですが、時代や文化によってさまざまな考え方があっていいでしょう。このシリーズ、これからも楽しく読ませてもらうと思っています。

北海道 木村健太(42才 会社員)

創刊おめでとうございます。

不老不死の特集はたいへ面白く読ませていただきました。

食事を健康の基礎として考える、精進料理や薬膳料理についての話題は特に興味深く読みました。食事と体と心のつながりが長寿の秘訣なのですね。

これからの特集も楽しみにしています。

神奈川県 佐藤和子(45才 主婦)

